
スマブラで逃走中やっちゃうよー

瑞希 優羅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スマブラで逃走中やっちゃおうよー

【Nコード】

N7779X

【作者名】

瑞希 優羅

【あらすじ】

タイトルどおり、スマブラのキャラで逃走中をしマス

適当に頑張りますのでよろしくネ！

ヒマな人、是非ミテネ

はじめましょー

ゆうら「えっと・・・さっそくですが、スマブラのキャラの皆さん
逃走中やってください。」

まりお「はっ？何言ってるのゆうら、おまえ」

ゆうら「だから、とうそうちゆう・・・」

まりお「やらないぞ！なんでやらないとだめなんだよ！なあ、みん
な！」

スマブラのキャラたち「やりたくない・・・」

ゆうら「みんなあ・・・。だって友達が小説書き始めたんだもん。

ゆうらもやりたいよう。みんな100円ずつあげるから逃走中やる
っ！」

まりお「そんなんでみんながえられる訳・・・」

スマブラのキャラたち「やるっ！」

まりお「はっ？みんな100円でつられちゃったの？ねえ・・・」

ゆうら「みんなありがとー・・・さあ、まりおくんどうするかね？
みんなやるみたいだよ？」

まりお「うわっ！なんだこいつ・・・急に上から目線なんですけど・
・・・」

ゆじゆじ「あーするっ、あーするっ。」

まじゆじ「あー、まじやるよー！そのかわりちゃんどー100円くれよー！」

ゆじゆじ「あーするっ、あーするっ。あ、はじめよー逃走中ー！」。

はじめましょー (後書き)

見てくださった方々ありがとうございます！
これからも頑張りますね。

次、キャラ紹介書きたいと思います

キャラ紹介します。

ゆづら「それでは、キャラ紹介いつきまーす」

マリオ ミスター任天堂！生意気なおっさん。

足は・・・遅いんじゃないかな？おっさんだから・・・

ルイージ マリオの双子の弟。影が薄い・・・。

マリオ同様足は、遅いだろう。

ピーチ キノコ王国のお姫様。ムカつくやつには容赦ない（マ
リオも

その一人）ドレスだから足、遅いよね・・・

クッパ いつも、ピーチをさらう悪いカメ。

やたらでかいし、短足だから足は、遅い！

ワリオ なんか悪そうな顔をした人。不良みたい・・・。

足は、遅い！だって、おっさんだから……。

ドンキー

バナナが好きなサル。

足が速いのかは、うーん……わからない！

デイデュー

ドンキーの弟分。バナナは好き。

すばしっこそう……。

リンク
いだ

ハイラルの勇者。ゼルダに片思い中。（本当は、両思

い！）足は、速そう……かな？

ゼルダ
思い

ハイラルのお姫様。リンクに片思い中。（本当は、両

だよ！）ドレスだから遅いだろう……。

シーク

いつもはぜるだの中にいる。今回は、私が分離
させたよ！足は、けっこう速い。

ガノンドロフ 顔がものすごく怖い……。作品中はガノンと略し

ます。足は……。うーん……。

トゥーンリンク ちっちゃいリンク。作品中はトゥーンと略します

足は、速いでしょう。

カービィ ププランドの住人。丸いピンクの物体。
足は、遅いと思う……。

デデデ大王 ププランドの王様。めんどくさがり屋。作品中はデデデと略します。足は、遅いんだろう……。

メタナイト 仮面をかぶった丸いやつ。素顔はかわいい。
足は、速そうだけど……。どうだろう？

ポケモントレーナー ポケモンを持っていなかったら普通の少年。

作品中はトレーナーと略します。
足は、普通ぐらいかな。

ピカチュウ

人気のポケモン。私も大好き。
なんか、すばしっこそう・・・。

ルカリオ

ポケモンの映画で活躍したポケモン。波動が使える。
足は、まあまあ速いと思う。

プリン

丸くてかわいいポケモン。走るのはキライ。
隠れるのは得意。

ネス

PSIが使える少年。かわいいのだが、たまにクロい発言
をする。足は、遅くもないし、速くもない・・・。

リュカ

ネス同様PSIが使える。心優しい少年。
(ネスとは違って・・・)
足は、ネスよりほんの少し遅いぐらいだろうか？

ピット　パルテナ親衛隊長。人の不幸が好きで、結構生意気な少年。

足は、普通よりも速め。

フォックス　スターフォックスのリーダー。時々、やんちゃなやつ？

足は、結構速いらしい。

ファルコ　スターフォックスのメンバー。あだ名は、焼き鳥。
足は、フォックス同様、結構速いらしい。

ウルフ　スターウルフのリーダー。フォックスやファルコとは、仲が悪い。
フォックス、ファルコ同様足は、結構速いらしい。

ポポ　アイスクライマーの一人。イメージカラーは水色。
足は、そこそこの速さ。

ナナ　アイスクライマーの一人。イメージカラーはピンク。

足は、そのその速さ。

スネーク

いつもダンボールの中に居るおじさん。

足は、普通ぐらいだろう。

ファルコン

なんか、いい感じのおじさん。

足は、すごく速い。らしい。

ロボット

ロボットです。片言でしゃべります。

足は、速いということにしておきます。

Mrゲーム&ウォッチ 真っ黒の人間。こちらも片言でしゃべ
る。

作品中はウォッチと略します。

足は、速くない。

サムス

逃走中には、ゼロスーツで挑みます。

足は、なかなか速いです。

ヨッシー

緑色の恐竜。なんでも食べる。
足は、結構速い。

アイク

グレイル傭兵団の団長。お肉大好き青年。
結構足は速い。

マルス

アリティアの王子。腹黒くてドS。
自分で俊足と語っている。

オリマー
ナシ。

ピクミンをつれている人間。逃走中では、ピクミン
足は、普通の速さ。

ソニック

青いハリネズミ。
足は、逃走者の中で一番速い。

マスターハンド

逃走中の管理を勤める。
私が100円で雇いました。
ミッションとかも作っています。気さくで面

白い人です。

クレイジーハンド マスターハンドと同じ文章です。

ハンター 足が速い人。

ゆづら 私です。ちよくちよく出てきます。

以上。

他にも、新しいキャラが出るときは、紹介します。

キャラ紹介します。(後書き)

キャラ紹介、疲れました・・・。

エリア紹介&ルール説明(前書き)

更新遅れてしまいました。

見てくださっていた方、申し訳ありませんでした。

以後、気をつけます。

エリア紹介&ルール説明

エリアショーかい

逃走中の舞台は『スマブラパーク』という場所に決定しました。

(勝手に作りました)

『スマブラパーク』はノースタウン、サウスタウン、イーストタウン、ウエストタウン、セントラルタウンの五つのエリアで構成されてるよ。

自首するための電話ボックスは各エリアに1つずつ。

牢獄は、セントラルエリアの広場にあります。

エリアショーかいは以上。

次、ルール説明。

ルールは、普通の逃走中とあまりかわらないよ。

逃走時間は、240分。

賞金は、一秒200円ずつアップ。

逃げ切ることができれば、288万円ゲットできるよ。

もし、自首すればそれまでの賞金をゲットできるよ。

ハンターに捕まれば、もちろん賞金はなしだよ。

(だが、ゆづらが最初約束した100円はもらえます。)

そして、ここからは普通の逃走中にはないルールです。

ゲームの最初、逃走者にクレジットカードみたいなものが配られるよ。

このカードには、あらかじめ50ポイント入っていてミッションをクリアすることにポイントがたまっていくよ。

このポイントは、各エリアにある『道具屋』にてハンターに対抗するための道具と交換できるよ。

もらえるポイントの量は、ミッションによって異なるよ。

難しいミッションは、もらえるポイントが高いよ。

ルール説明は以上です。

では、逃走者のみなさんががんばってください。

エリア紹介&ルール説明（後書き）

なんとか、ルール説明終わりました。

次は、オープニングゲームですね。

がんばります。

オープニングゲーム!? (前書き)

今回は、更新がんばりました。

オープニングゲーム!?

スマブラパーク、セントラルエリアの城前。

ここに集められたのは、スマブラメンバー37人。

メンバーたちの目の前には、4つのハンターボックス。

ハンターボックスには、色とりどりの37本のクサリがつながっている。

マリオ「なんか緊張してきたんだけど……」

ルイージ「そうだね、それにもう皆集まってるしそろそろ始まるんじゃない?」

カービィ「楽しみペポ!」

ピット「金がもらえるってなんかヤルキでるよね!」

アイク「もし逃げ切れたら、お肉くいたい・・・」

皆さん前よりはヤルキになったようです。

すると、楽しくおしゃべりしている皆のうしろから・・・

？「やーみんなー。元気してる？」

メンバー一同「ん？」

後ろを振り返ったメンバー。

そこにいたのは・・・

マスター「みんな、こんにちは。マスターハンドとクレイジーハンドだよ！」

クレハン「だよっ！」

リンク「マスターハンドさんたちも参加するんですか？」

マスハン「いや、僕らは裏方だよ。ミッションとか考えたりとか・
」

クレハン「こうして、今現れたのもいろいろ説明しに來ただけだから・・・」

スネーク「そうなのか・・・」

マスハン「まあ、それはおいといて、早速逃走中を始めたいと思います。」

メンバー一同「イエーイ！」

急にテンション高っ!?

まあそれはいいとして、

クレハン「それでは、今から皆さんにはクジを引いてもらいます。」

(ちなみにこのクジは、昨日徹夜でクレハンががんばって作りました。)

ネス「あっ、それってあれでしょ？1番を引いた人から順番にあのクサリを引っこ抜いて

いくやつ！やったー！あれ一回やってみたかった………
……」

マスハン「ネス君、少しの間黙っていてください。」

ネス「はあ？そっちが黙れゴミハンド！」

さっきのネス君は一体どこへ………

マスハン「ごめんなさい。ねすくん。」

マスハン「き、気をとりなおして皆、クジを引いてくれ。」

皆がクジを引き終わりました。

リユカ「僕が1番です。怖い・・・」

ピット「やったー 最後だ最後ー！リユカーがんばっ」

フォックス「ピットいいなー俺、16番。中途半端でなんか嫌！」

マルス「僕は、2番。1番と2番と3番は、絶対安全。」

ゼルダ「なんでそんな事わかるんですか？ちなみに私は、29番です。」

マルス「それは、あれだよ。最初にあたりを引いちゃったらおもしろくないからだよ。」

クジ引きが終わり、なんだかテンション高めの皆さん。

オープニングゲームは、一体どうなるのか？

お楽しみに

オープニングゲーム!? (後書き)

やっと、本編に入りました。

これからも、がんばります。

オープニングゲーム!?

クレハン「じゃあ、クジ皆引き終わったみたいだから簡単にルールを説明するぜ。」

マスハン「……………」

マスハンはまだネスが放った言葉『ゴミハンド』のショックから立ち直れていないらしい……。

クレハン「ルールは、ネスが言っていたことと同じだ。一番を引いたやつから順にあのクサリを引いていく。それで、誰かが一本だけあるアタリのクサリを引いたらゲーム開始だ。」

ウォッチ「ツマリ、ソノ『アタリノクサリ』ト言ウノガ、ハンター放出ノクサリナンデスネ?」

クレハン「そーゆー事です。あと、皆にはこれを渡しとかないと……」

そういつて、クレハンが鞆から取り出したのは、37枚のカード。

そのカードをクレハンは、皆に手渡しで配った。

クツパ「なんだ？これ？」

マスハン「あっ！それは、説明する！」

さっきまで、一言もしゃべらなかったマスハンが急にしゃべった。

シーク「うわっ！びっくりした・・・さっきまであっちで沈んでいたのに、立ち直り早いな・・・」

マスハン「ちょっとまだ、気もちは沈んでるけど、これは説明したかった。」

ウルフ「自分で、沈んでるとか言うなよ・・・」

ピカチュウ「それに、なんか理由が子供っぽい・・・」

マスハン「うっ、うるさいぞ！説明したかったんだからいいじゃないか！」

ヨッシー「別にいいですけど・・・」

マスハン「よし、じゃあ説明するぞ。このカードはスマカードと
いって、『スマ』というポイントをためるカードです。スマは、ミ
ッションをクリアすると貯まります。ちなみに、スマが貯まるとエ
リアに1つずつある道具屋でハンターに対抗する為の便利グッズと
交換することができますよ。

カードについての説明は以上。」

クレハン「次に、何か必殺技を持つてる人っているよね？PKナン
チヤラ〜とか・・・」

そんな人には『必殺技つかえなくなるリング』という
ものを指にはめてもらい

ます。」

クレハンは、必殺技が使える人たちにリングを渡した。

てか、ネーミングセンスなさすぎっ

クレハン「あと、羽とかついてる人、とってください。」

メタナイト&ピット「あいよ。」

ポスッ。

マリオ「羽って、取り外し可能だったの？なんか、もうなんでもアリなんだね。」

マリオ、あきれています。

マスハン「さあて、ルール説明も終わったことだし、そろそろ始めますか。」

そして一人目……

リュカがハンターボックスの前に立った。

ほかの皆は、ハンターボックスから20m離れた場所で待機している。

ポポ&ナナ「リュカ、何色にするの？」

リュカ「決めました。オレンジ色にします……それじゃ、引きますよ……せーのっ」

ガシャ・・・

一人目リュカ、セーフ。

ちなみに、セーフだった人はどこか遠くでゲームを始めることができます

リュカ「よかったです。それでは皆さん、頑張ってください。サヨナラ」。

リュカは、向こうのほうへ消えていった。

オープニングゲーム!? (後書き)

中途半端になってしまい、すみません。

近いうちに、更新しようと思います。

オープニングゲーム!?

オープニングゲーム2人目はマルス。

マルス「じゃあ、黒にしよーかな」

ドンキー「なんでハンターカラーなんだよ。」

マルス「2番目は、アタリを引かないって言うルールがあるから何色をひいてもいいんだよ。」

デイディー「そんなルール誰も作ってないと思う……」

ガシャ……

2人目マルスセーフ。

マルス「ほら、やっぱりひかなかった。」

ピーチ「リュカ君みたいに「セーの」とか言ってほしかった・・・」

マルス「じゃー皆がんばって。ばいばい」

ファルコ「何かあいつ、地味にムカつんだけど・・・」

全員「同感。」

マルスは皆がひどい事を言っているとも知らず向こうへ走っていた。

3人目は、ルイージ。

サムス「みなさん、逃げる準備オーケーですか？」

全員「大丈夫です。」

ルカリオ「ルイージ、もう引いてもいいぞ。こっちは準備できてる。」

ルイージ「ちょっと、皆何してんの？逃げる気まんまんじゃん。」

マリオ「だって絶対ひくじゃん……。」

ルイージ「決めつけんなっ！」

ロボット「ハヤク、ヒイチャイマシヨウ。」

ルイージ「じゃあ、緑で……。ひきます……。」

ガシャ……

3番めルイージセーフ。

ルイージ「ひゃっほおおおおっー！」

異常なくらい喜んでる……。

ネス「ちっ……ひかないのかよ。」

ルイージ「まあ、みんながんばって。」

ルイージは向こうへ走っていった……喜びながら……。

ファルコン「ルイージ……不安だったんだな。」

ファルコンは、走り去るルイージを見ながらつぶやいた。

そして、4番目ソニックは、白色。5番目ネスは、紫色。とクサリを引いていったがハンターはまだ放出されなかった。

そして次にクサリを引くのは、ガノン。

ピーチ「まさか、あなたが引かないわよね。」

ガノン「大丈夫だ……ろっ。」

プリン「まあ、頑張るでプリ。」

トレーナー「で、何色引く？」

ガノン「うむむ……茶色にしよう。」

オリマー「これまた、地味な色をえらびましたね。」

ガノン「じゃ、ひくぞ……」

ガツシャン……

ハンター放出。

出てきたハンター達が、まず狙うのは……ガノン。

ガノン「ちよつ、おええええ！ハンター早っ！無理無理、無理だつてば！無理iiiiiiiiiiii」

ポン。

ガノンドロフ確保。

残り36人。

ぴろろろろろ・・・

メールだ。

スネーク「なにになに・・・ガノン確保か・・・当たり前だな！」

スマブラパーク城前・・・

ゆうら「おつかね〜。クレハン、マスハン」

マスハン「おおっ、ゆうら。」

ゆうら「いやあ〜、オープニングゲーム楽しかったよ。これからも

頑張ってくれ！我がしもべたちよ！」

クレハン「あんま調子のつたらぶち殺すよ？」

ゆづり「いっめん・・・」

さて、次回より逃走中スタートです。

オープニングゲーム!? (後書き)

やっと、オープニングゲーム終わりました。頑張って書きます。

そこで、宣伝タイム。

まっきー(死神魔姫くんの事です)が書いてる、大乱逃走中って小説。

そっちも見てほしいです。

宣伝タイム終了。

MISSION 1 (前書き)

やっと、オープニングゲームから抜け出せました・・・

MISSION 1

ゆうら「ミッション1どーするの?」

クレハン「とりあえず、ハンター増やしとけ。」

マスハン「そーだな、じゃあもうちょっとしたらメール送るか・・・

」

クレハン「つーか、3人で裏方やんのきつくねっ?」

マスハン「たしかに・・・おいつゆうら、誰かいないの?」

ゆうら「いるよ!呼んどいた・・・友達。だから大丈夫!さあ、そろそろ待機場所いこっ」

3人は、待機場所へむかった。

そのころ、逃走者たちはというと・・・

ピーチ「ここまできたら安心ね。ほんとにさっきは焦ったわ・・・自分のドレス踏んじやうなんて・・・」

ピーチのまわりに人影なし・・・

独り言、言ってるし・・・

プリン「もう疲れたプリ。どこかに隠れて休むプリ・・・。あつ、あそこにするプリ。」

プリンの目の前には、いい感じの大きさのBOXが・・・

プリンはそのBOXにはいつていった。

でも・・・プリンは気づいてないと思うけど、結構丸見え・・・。ハンター来たら相当ヤバイです。

ピット「うわっ、まだ235分も残ってる・・・」

今、始まったばかりなのに何を言ってるんだコイツは……

マルス「まだ5分しかたつてないし……マジでないわぁ……」

コイツもか!!何が「ないわぁ」「やねん!真面目にしろよ」。

ソニック「俺のこの足があれば楽勝だぜ」。

でも、この余裕をぶっこいてるソニックの後ろに迫っているのは……

ハンターだ。

だが、ソニックは気づかない。

どンドン距離が縮まっていく……

ポン。

ソニック確保。

残り、35人。

「えええええ！？いつの間に・・・オーオーマイガアアアアア。」

ソニックは力尽きた・・・

ぴろろろろろ・・・

メールだ。

トウーン「ソニックさん確保・・・ええっ！あの足の速いソニックさんが？ハンター恐るべし・・・」

そのころ、待機場所では・・・

マスハン「もうそろそろミッションやるつか・・・」

クレハン「そうだな。じゃあ、メール送るぜ・・・」

クレハンはケータイに文字を打ち始めた。

クレハン「送ったぜえ〜。」

ゆうら「みんな、どんな反応するかな？」

ぴろろろろろ・・・

ヨッシー「またメール！・・・なんたる・・・。」

ミッション1

ミッション1の内容を伝えます。先ほど、各エリアに3個ずつハンターボックスが設置されました。エリアは全部で5つあるのでパー

ク内には15個のハンターボックスが存在していることになります。このハンターボックスは、残り時間210分になると自動的にボックスが開き、パーク内のハンターが19体になります。皆さんはそれを阻止することができます。方法は、制限時間内に、どこにあるか分からないハンターボックスを見つけ、その横にある暗証番号入力装置に自分のスマカードの暗証番号を入力するだけです。1人何個でも阻止することができます。ミッション終了後、阻止した数にみあった、スマ（ポイント）を入力された暗証番号の、スマカードへお支払いします。

以上です。
ミッションに参加するかは逃走者の自由です。

アイク「ハンターが増えるのか……。これはやるしかないな。」

ピカチュウ「ううう……。ほんとに行きたくないけど、ハンター増えるのやだし、ポイントもほしいから行こうかな……」

フォックス「うげっ……。ハンター19体とか無理だろ……。一体だけでもいいから片付けておくか……。ちよっとポイントもほしい……」

逃走者のほとんどはミッションに向かう様子……

さて、この後の展開は!?

MISSION 1 (後書き)

皆さん見てくれてありがとうございます。

ついに、アクセス数が700突破！

ちょっと、びっくりです。

見てくださっている方、これからも頑張りますのでよろしくお願
い
します。

MISSION 1 パート ツー

ルカリオ「ハンターボックスどこだよお・・・」

サウスエリアを走り回るルカリオ。

ルカリオ「建物の中とかは、ないよなあ・・・」

そついいながら、普通の民家の中へ入っていった。

不法侵入じゃないか？という疑問は、置いて・・・

ルカリオ「やつぱり、ないよねえ・・・あつ・・・あつた。」

ルカリオは暗証番号を入力。

残るハンターボックスは、14個になった。

ルカリオ「俺、よくこんなにつぱいある民家の中からハンターボックスのある民家に入ったな・・・ちよー運いい！つて、こんな民家の中にあるんだつたら探すのめんどいな・・・誰かに教えてやる

「と。」

びろろろろろ・・・

ルカリオが電話をかけたのは・・・

アイク「ん？もしもし・・・アイクですけど。」

アイクだった。

ルカリオ「俺、ルカリオなんだけど・・・」

アイク「えっ？どうかしたのか？とゆうか、俺あんましルカリオと面識ないと思うんだけど・・・」

ルカリオ「うん、面識ない。ただ、電話帳で最初に出てきたのがアイクだっただけ。ほらっ、ア行だから。」

アイク「ああ、そうか。で、何か話があったんじゃないか？」

ルカリオ「そーそー、ハンターボックスのことで。俺、今ハンター

ボックス見つけたんだけど、どこにあったと思う？民家だよ民家、ごく普通の民家にあったから、建物の中もよく探したほうがいい。っていう事を伝えたかった。以上。できたら他の人にも伝えたい。じゃっ
」

ぷっつ　　っーっーっー。

このあとアイクは、ルカリオに教えてもらったことを、頑張って逃走者全員に伝えました。

ポポ「ハンターボックスどこだろお？」

ノースエリアを歩き回るポポ。

ポポ「アイクは、建物の中にもあるとか言ってたし、あそこにも入ろうかなあ……」

ポポが目指すのは、何かの施設。

だが、目の前に現れたのは……ハンター。

「ポポ」うわああ！ハンターだあ・・・もう、走れないよあ・・・

ポン。

ポポ確保。

ぴろろろろろ・・・

メールだ。

ワリオ「ポポ確保、残り34人！まったく、子供はダメだな！！」

今すぐ、殺してやりたいが・・・我慢我慢。

ミッション残り時間あと15分。

いったい何体のハンターが放出されるのだろうか？

そのころ待機場所では・・・

クレハン「お〜いゆうら、まだ友達こねーの？」

ゆうら「あつ、その事なんだけど、急にドタキャンされちゃって、6人いたんだけど・・・全員。」

クレハンとマスハンのヒソヒソ話タイム

マスハン「あれっ？ゆうら、友達に嫌われてるんじゃないかって思ったのって私だけ？」

クレハン「大丈夫だ。俺も思った。ゆうらの学園生活大丈夫か？心配なんだけど、マジで」

などなど、ヒソヒソ声でしゃべっていたマスハンたちでした。

MISSION 1 パート ツー (後書き)

何か変な文章などありましたら言ってください。

数がおかしいですよとか。

ご協力お願いします。

MISSION 1 パートスリー（前書き）

本当は、土曜日に書く予定だったんだけどね・・・

MISSION 1 パート スリー

その頃、イーストエリアに居たマリオは・・・

マリオ「おーーーーー！あつた！」

船着場の棧橋の上にあったハンターボックスを見つけたようだ。

マリオ「やったやった！ポイントゲット」。

マリオは、スキップをしながらハンターボックスに駆け寄り暗証番号を入力。

残るハンターボックスは、13個になった。

マリオ「よっしゃあ！この調子でがんばるぜえい。」

そういつとマリオは、どこかへ走り去っていった。

ファルコ「ハンターボックス見つけ！！！」

ハンターボックスを見つけたのは同じく、イーストエリアに居たファルコだった。

ファルコは建物を中心に探していたらしく、映画館の中に居た。

ファルコ「やっぱり、俺のよみは間違っていなかったな。」

と、言いながら暗証番号入力。

残るハンターボックスは、12個になった。

ファルコ「よかった・・・1個でも見つけることができて・・・」

だが、安心しているファルコの前に突然現れたのは・・・ハンター。

ファルコ「ハ、ハンター！？俺、めっちゃ運悪！なんで4体しかないハンターがこんなちっちゃい映画館にいるんだよ！どんな確率でこんな事になるんだ？」

ファルコがごちゃごちゃ言ってる間にハンターはファルコの後ろに

迫っている。

そして・・・

ぽん。

ファルコ確保。

びろろろろろ・・・

メールだ。

ネス「焼き鳥つかまってんじゃん あはははははは〜っける〜」

焼き鳥って・・・せめて、ファルコっていつてあげてね・・・

そして、ミッション残り時間5分。

びろろろろろ・・・

またメールだ。

「デイディー」『ミッション1ちょっと遅めの途中経過』だって……

「ハンターボックスがあとどれだけ残っているか、と、阻止した人の名前をお知らせします。」

ノースエリア……まだ、だれも阻止してません あと3個

ウエストエリア……オリマー あと2個

サウスエリア……ルカリオ、シーク、メタナイト あと0個

イーストエリア……マリオ、ファルコ あと1個

セントラルエリア……スネーク、スネーク あと1個

です。」

カービィ「まだ7個も残ってるペポ。もっと頑張らなきゃペポ。」

そして、あっという間に残り15秒。

何とか、ピット、カービィ、スネーク、リュカ、ウォッチのおかげで5個は阻止できた。

4分45秒でよく頑張ったと思う。

そして、カウントダウンが始まった。

この15秒で阻止することができるのか？

15

14

13

12

11

10

リンク「見つけた〜早くしないと。」

おっ、リンクが見つけたようだ・・・

9

8

7

6

5

リンク「暗証番号、暗証番号・・・」

4

3

リンク「手が震えて、押せない・・・やばい！」

2

リンク「もう無理。逃げる」

って、逃げんのかい！

がしゃん・・・

ハンターが2体、放出された。

リンクはというと、完全にハンターに見つかってしまっている。

リンク「ちょー、タイムタイム。待ってってば。」

そして・・・

ぽん。

リンク確保。

メールだ。

ルイージ「おっ、一人緑が消えた！ラッキー。」

続いてまたメール。

ルイーダ「なにになに・・・『ポイントの振りわけについて』か。」

オリマー、ルカリオ、シーク、メタナイト、マリオ、ファルコ、ピット、カービー、リュカ、ウオッチには、ポイント30スマが振り分けられました。

スネークは、90スマが振り分けられました。

以上。

スネーク「90スマだあー。後でさっそく道具屋行ってみるか・・・」

残る逃走者は、32人。

こうして、ミッション1終わりました。

MISSION 1 パートスリー（後書き）

いろんな所、省略しました。

読みにくかったら、ごめんなさい。

MISSION 1が終わって・・・(前書き)

めっちゃ、更新遅いですよね・・・私って。

まず、私の小説楽しみにしてる人なんていないと思うけど・・・

マリオ「なんか、めっちゃネガティブオーラ漂ってるんだけど・・・
まあ、あいつはほづつといて、小説を読んでください。」

MISSION1が終わって・・・

スネーク「あー、道具屋。」

140スマを持ったスネークは道具屋の前にいた。

スネーク「ちょい、よってみるか・・・」

カランカラン (ドアが開いた音)

???「おお、いらっしやあーい。」

スネーク「おう、ロイじゃないか、久しぶりだな!」

ロイ「スネークかあ、ここは、道具屋だよ。何がいる?」

ロイの目の前の棚には、いろんなものが並んでいる。

ロイ「ええつとね、ここに売ってるのは・・・クラッカーランチャ

ーとスーパースターとモンスターボールとおとしあなのタネとサンダーだよ。どうする?」

スネーク「おつ、いいのあるじゃないか。100スマのクラッカーランチャーくれ。」

ロイ「まいどありー。はい、どーぞ。」

スネークは、クラッカーランチャーを手に入れた。

ロイ「弾は2発はいつてるよ。大事につかってね。」

スネーク「つーか、なんでロイがいるんだよ!」

ロイ「なんでつてひどいなあ・・・なんか、本当はゆうらの友達が来るはずだったらしいんだけど、ドタキャンされたらしいよお。だから、代わりに僕らがよばれたの。」

スネーク「そうなのか・・・まっ、がんばれよ。」

ロイ「そっちもねえ、じゃあばいばい。」

カランカラン

スネークは店をあとにした。

デデデ「なんとか頑張ってるぞい。」

ピット「そうだね、デデデのくせにまーまー頑張ってるよね。」

2人はなんかよくわからないけど一緒にいるようだ・・・

デデデ「くせになってなんだぞい。」

ピット「いーじゃんいーじゃん」

だが、そんな二人の前にハンターが現れた！

ピット「やばっ、ハンター！まずい。」

デデデ「ほんとだぞい！逃げないとぞい。」

頑張っ て走る二人・・・でもハンターとの距離は縮まっている。

ピット「ええい、仕方ない！」

そっついとピットは、デデデの足を引っ掛けた。

デデデ「ぶえっ！？」

デデデは大きく転倒。

ピット「デデデーありがとう。絶対に忘れないからあー！。じゃっ」

ピットはすごい速さで遠ざかっていった・・・

デデデ「ちよっ、ええええええええ！あのガキなんて事するんだぞい
」！

そして・・・

ポン。

デデデ大王確保。

ぴろろろろろろ…

プリン「デデデ大王確保、残り…ふぶぶっ！隠れないからこう
いうことになるぶり。」

そういうプリンもちゃんと隠れできてないですけどね。というか、
まだつかまってないのって奇跡だよ。

いきなりだけど、「牢獄でトーク」はじめちゃいます。

デデデ「ピットのやつらうう、むかつくぞい！…！」

ピットのせいで、つかまったデデデ、かわいそうだなあ…

で、今牢獄に入っているのは、5人。

ゆうら「みんなーきたよ。」

そして、なぜかゆうら登場。

リンク「おっ、ゆうら。なになに？何か持ってきたの？」

ゆうら「持ってきたー。おやつ」

牢獄の皆「イエー！！」

ゆうら「あいすくりーむなんだけどね、3つしかないの。1つは私のだから、2つ誰かにあげようと思って持ってきた。」

ファルコ「じゃあ、どーするんだ？」

ゆうら「私、ポポちゃんには、あげるつもりだったから5人でじゃんけんしてー！」

ポポ以外の5人「えっ！なんでポポだけ？」

ゆづら「だって、ポポちゃんちっちゃいもん。かわいいもん。」

ガノン「そりゃ、ないだろー」

ごちやごちや・・・

なんか、もめてる牢獄でした。

MISSION1が終わって・・・(後書き)

感想待ってます。

何でも言ってください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7779x/>

スマブラで逃走中やっちゃんよー

2011年12月14日00時49分発行